

# 『現にあるものをぶち壊すのが私の職業です』

(治安維持法で逮捕された金子文子の第1回諮問調書より-1925年7月18日 市谷刑務所)

\*\*\*\*\*



写真：2018.11.15 ソウル聯合ニュースより

お話し

## 金子文子の

## まなざしを追って

### —わたしはわたし自身を生きる—

### その思想と生涯

講師：鈴木裕子さん

『増補新版 金子文子 わたしはわたし自身を生きる  
手記・調書・歌・年譜』(梨の木舎刊) 編著者

\*\*\*\*\*

「金子文子—かねこふみこ(1903生~1926没)」をご存じですか？ 日露戦争の前年に生まれ、実の親や親族による虐待・貧困・最底辺の暮らしの中から、自身の力で社会の本質をつかみ取った彼女。治安維持法違反の取り調べ中、度重なる転向の説得に一步も引かず、「強い者は自分の行動の自由を擁護しつつ、弱者に服従を強いる。(略)強者への服従の約束が、いわゆる道徳であります。」「人間はすべからず平等であらねばならない。」「立派な論理が私の前に市をなしている。だが実行できないような言葉じゃしょうがない」と言い放ち、その後23歳で獄死します。今回の講座では、金子文子の手記・調書・詩・年譜を一冊にまとめ世に送り出した鈴木裕子さんに、金子文子の生涯とその思想についてお話しいたします。ぜひ、文子に出会いに来てください。

◎日時：2023年2月26日(日)  
13:30~16:30(開場13:15)

◎会場：青猫書房(北区赤羽2丁目28-8  
TimberHouse 1F JR赤羽駅東口から徒歩10分)

◎参加費：ご予約1300円 当日1600円  
+飲み物1オーダー  
※携帯・スマホを所有されていない方特別価格300円引き!

◎お問合せ：050-3594-2951(留守電対応)  
whats.everything@gmail.com

★お申し込み：こくちーず→

主催：what's

<https://whats-everything.jimdofree.com/>



<https://onl.bz/SpKFkvg>



金子文子は、少女期を当時、日本帝国主義の植民地下にあった朝鮮で過ごした。養女候補で父の妹夫婦に引き取られたのであった。そこで文子が目のあたりにしたのは、叔母夫婦(叔母の母すなわち文子にとっては祖母一

家)がまぎれもなく「植民者家庭」であったこと。自家の朝鮮人使用人を酷使し、人間以下の扱いをしていたこと、文子がそうした植民者家庭に馴染めず、「養女」失格となり使用人になり、冷たくあしらわれていたことなどが日本植民地下の朝鮮人とまっすぐに向き合えたこと、日本に帰る直前に、1919年の3・1独立運動に遭遇し、強い共感を持たれたこと、が、文子の生き方に大きく作用した。

文子は23年の関東大震災の折、夫の朴烈とともに「保護検束」の名で検挙され、最終的には「不敬罪」に問われ、死刑宣告を受けた。判事たちから執拗な転向を強要されたが、拒否。そればかりか天皇からの罪一等を軽減する恩赦状を引き裂いた。文子の思想は、自前で考え出した反天皇制への分析に基づく天皇制廃絶の思想であり、人間の絶対平等思想であった。反天皇制の峰をつくったともいう文子の天皇制廃絶の思想を重点的に見たい。

さて、日本の女性運動は、文子と同時代を生きた平塚らいてうや市川房枝に代表されるように「天皇制の枠内」での男女平等であった。いいかえれば帝国のフェミニズムであった。市民的リベラルに立ったもので家父長制道徳や儒教的道徳などに反対し、それなりに思想には反封建の立場に立った。しかし帝国主義や複合差別に無関心であったということは、戦時には容易に戦争協力や翼賛(天皇)加担へと転じた。

そうでなかった女性やフェミニストは海外で反戦運動に関与した長谷川テルや石垣綾子らであり、国内においては山川菊栄や宮本百合子らごく少数であった。多くの女性運動家やフェミニストが「天皇制共同体」のなかに絡め捕られていった。この点に関しても論究する。

【参考文献】鈴木裕子『忘れられた思想家山川菊栄 フェミニズムと戦時下抵抗』梨の木舎、2022年  
鈴木裕子『フェミニズムと戦争 婦人運動家の戦争協力』マルジュ社、1986年 増補新版 1997年(現在絶版)



【講師プロフィール】

鈴木裕子(すずきゆうこ)  
1949年東京生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。静岡大学法経短期大学講師をはじめ、明治大学、国士舘大学、東京経済大学、東京学芸大学の各講師。早稲田大学文学部、同国際部、同

文学学術院元教員。現在、早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員。前記の著書のほか、日本軍「慰安婦」問題、部落解放女性運動、『山川菊栄集』全10巻別巻1巻(岩波書店、1981-82年)、『新装増補 山川菊栄集』全8巻別巻1巻(岩波書店、2011-12年)、『山川菊栄評論集』(岩波文庫、1990年)、山川菊栄『女二代の記』(岩波文庫、2014年)校定・注・解説、『天皇家の女たち』(社会評論社、2019年)等。

青猫書房 : <https://aoneko-shobou.jp/>  
TEL 03-3901-4080 JR 赤羽駅東口から徒歩 10 分



柔軟剤・香水などの香りの強いものを身につけずにご参加ください。  
携帯・スマホ等のお持ち込みをお控えいただきますようお願い致します。

無香料 ケータイ禁止 スマホ禁止 タブレットも

電磁波や化学物質に敏感な方への配慮です。  
どうぞご協力をお願い致します。

講演中は電源 OFF!